

のら猫クロッチと目があつて

ご縁ができたその日から そばに寄り添い 共に歩んで 同行二人

7

わだ

たかこ

和田タカ子

特定非営利活動法人
オペラ彩 理事長



©1997,2016 NURUE

今年5月で発足34年目を迎える特定非営利活動法人オペラ彩(発足当時:朝霞オペラ振興会)。埼玉県和光市を拠点に、30年以上にわたって質の高いオペラを上演し続けている、理事長にしてプロデューサー、そして自らもソプラノ歌手である和田タカ子さん。これまでにオペラは、和田さんが主催する出前オペラ「泣いた赤鬼」の導入部分で何度か登場させてもらったんだ。

**オペラを地元で上演し
地元でファンを作る。**

最初の公演は200人収容のホールだった。34年後の今日、1100人以上を収容できる市民文化センター大ホールはほぼ満席になる。発足当初の公演はピアノの演奏だけでオーケストラがはいらなかった。今ではプロ中のプロのオーケストラ、バレエ、合唱など全ての要素がはいったグラントオペラを上演している。

「オペラ」という言葉がまだ一般化していなかった1980年代。オペラが「なにか特別なもの」と見なされていた当時、自分たちの研鑽の場、発表の場を持ちたいという熱い志の音楽家7人が集まって「オペラ彩」を設立した。

**生身ですから、生の舞台
ですからね、それはいろいろ
起こりますよ**

オペラ制作のかたわら、自らもソプラノ歌手として舞台上に立っていた和田さん。体調不良の歌い手に最後の通し稽古で歌うことを禁じたことがあった。「本番で歌えないことが一番よくないです」。自分がインフルエンザでオケあわせに出ることができず、最終リハーサルではじめて歌えたという辛い体験があったからこそその英断だ。「かなりハードです。でも、どんなことがあっても歌い手を守ります」。きっぱり言い切る和田さんに、修羅場をくぐり抜けてきた名プロデューサーの顔を見た。和田さんはスケジュール調整、

広報、すべてを行なう。衣装、音響、照明、みなプロが担当しているが、それぞれの要となるのがプロデューサーの役割だ。指揮者を選ぶことからはじまり「決めること」はわたしが決めています。上演する演目は、「こんなふうになりたい!」「これならいい作品ができる!」というイメージが固まった時に決まるという。上演する作品の国に行くことも多い。昨年は「ラ・ボエーム」の舞台、パリに出かけた。

**一度は音楽の勉強を断念。
しかし再び、音楽家の道
を志す。**

家庭の事情で音大進学を断念せざるを得なかった和田さんは、高校卒業後に上京し大手出版社

**クロッチといっしょに「泣いた赤鬼」を伝えていきたい。
「オペラは難しいものではない」とクロッチに伝えてほしい。**



**出前オペラ「泣いた赤鬼」
を見て欲しい。外国でも
上演していきたい。**

26年間続けている出前オペラ「泣いた赤鬼」の上演はすでに70回を超える。初演直後から「移動公演をぜひやってほしい」という声が殺到し、請われるままに全国各地で上演してきた。昨年は、関東甲信越の幼稚園の先生が2400人が観劇後に感動の涙を流した。「舞台で演じる側と観客がこれほど一体化できる作品は少ないです」と和田さん。

「犬ですね。散歩している犬がニコニコと寄ってくるの」なぜ犬かという「だれに対してかまえないし気にしないしね。わたしは1人で生きているイメージではないし」だそう。 「クロッチって気にしないでどこにでもいけるでしょう。それは素晴らしいことなの!だれとも友達になれるしね、それで簡単そうで簡単ではないんですよね」。「クロッチ、元気で頑張ってるね。新しいことを切り開いていくことはとても大切。動いてないと元気とは言えないわよ!」ガッテンだ!!

自分を動物に例えるなら

「犬ですね。散歩している犬がニコニコと寄ってくるの」なぜ犬かという「だれに対してかまえないし気にしないしね。わたしは1人で生きているイメージではないし」だそう。 「クロッチって気にしないでどこにでもいけるでしょう。それは素晴らしいことなの!だれとも友達になれるしね、それで簡単そうで簡単ではないんですよね」。「クロッチ、元気で頑張ってるね。新しいことを切り開いていくことはとても大切。動いてないと元気とは言えないわよ!」ガッテンだ!!



月1回、和田さんが開催しているオペラ勸進「歌と芸術よもやま話」は2016年11月で100回目。そこで和田さんの話を聞いた人が、後にオペラを見にくるそうだ。「本物のオペラに触れてほしい」と3年前に中学校の音楽室を借りてはじめた稽古場見学会には「NPOがこういうかたちでオペラを広めていることは凄い!」とNHKが取材にきてくれた。http://opera-sai.jp

**オペラの魅力をぜひ
知って欲しい!**

和田さんは最初、オペラを面白くとは思わなかった。ところ

「泣いた赤鬼」は子どもたちだけでなく親御さんにも見てほしいという。日本全国で、そして外国でも上演していきたいそうだ。「泣いた赤鬼」は日本の大切な文化であり心でもありまますから。これを知ってもらったら日本はもっと理解されると思います。」

■和田タカ子(わだたかこ)

特定非営利活動法人オペラ彩理事長。プロデューサー、ソプラノ歌手。定期公演オペラで幾度も音楽賞を受賞。平成3年から続けている出前オペラ「泣いた赤鬼」は、全国の幼稚園、小中学校、音楽鑑賞会等での上演は70回を超える。平成28年度下総統一音楽賞を受賞。